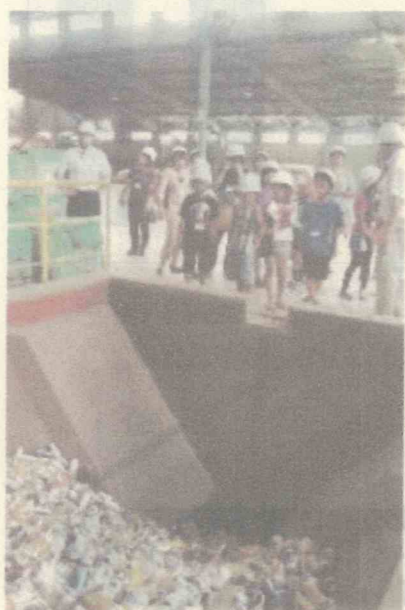


## 7年間がんばりました！福岡県3R協働推進事業

今年は、「夏休み親子リサイクル探検隊」として、見てみようコース（7/26）では九州大学とマルタイ福岡工場へ、やってみようコース（8/8）ではイオンモール福津とエコロの森へ見学に行きました。定員各40名のところ、合わせて200名以上の応募があり、抽選となりました。

見学先では、趣旨を理解頂き、3Rの取り組みに重点をおいて案内してもらいました。おかげで、参加の80%以上の方がご自分の3R実践を見つけ、1ヶ月経っても継続しているというアンケート結果が出ました。



▲古賀清掃工場

また、当日のアンケートからは、オリンピックメダルプロジェクトや日本の食品ロスの量について知られていないこと、企業の驚く3Rの取り組みがあったこと、保護者の方が知識に対して貪欲だったことなどがわかりました。参加の方が実際にどのように感じ、行動に移されるのか、生の声を聞き、効果の有無を実感することができるのは、この事業の魅力でもあります。

福岡県3R協働推進事業は、エコけんの日頃の活動を存分に活かせる事業でした。最初の受託からこれまでの間、「夏休み親子リサイクル探検隊」や「大人のためのリサイクルツアー」を実施する上では、応募の出足を心配したり、予定していた見学先に断られたりなど実施に至るまで紆余曲折ありましたが、最後に参加者の満足な笑顔を見ると「やってよかった。」と疲れも吹き飛びます。また、様々な企業、工場、大学など違う立場での3Rの取り組み情報は興味深く勉強になりました。

これまで、ご協力頂いた企業、施設、大学などの皆さまに心より感謝いたします。

《MS. W》

《これまでご協力いただいた皆さま》

イオンモール福津 古賀清掃工場 糸島みるくプラント 九州大学 3Rステーション 小寺油脂(株)  
日本食品株式会社 IKEA福岡新宮(株)環境エージェンシー 株式会社マルタイ福岡工場 皇后崎工場  
ヤフオクドーム 西部ガス(株)福北工場 (有)創光リサイクル (有)カノオ醤油味噌醸造元  
まもる一む福岡 福岡ヤクルト工場 糸島市クリーンセンター 大和ハウス工業(株)九州工場  
トヨタ自動車九州株式会社 (株)ブリジストン久留米工場 (株)安川電機 おおき循環センターくるるん

(順不同)



▲イオンモール福津



▲九州大学

## エコけんニュース

No. 190  
2018.10

古賀市天神 1-19-21  
TEL/FAX 092-944-6450  
ecoken@npo-ecoken.sakura.ne.jp  
http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/

リレー記事 No.108

### 「都市鉱山から作るみんなのメダルプロジェクト」に参加しよう!

私たちが棄てる小型家電は、日本国内で1年間に約65万トンにもなるそうです。小型家電には金・銀・銅などの貴金属やレアメタルが含まれているので、「都市鉱山」と言われています。100kgの金鉱石に含まれる金と携帯電話9台に含まれる金がほぼ同じ量だそうです。資源の少ない日本ですが、都市鉱山を資源と考えるならば、日本の金は世界の埋蔵量の16%にもなり、資源大国と言えそうです。



その都市鉱山を活かして2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、小型家電のリサイクルから約5000個の金・銀・銅のメダルを作るというプロジェクトが進行中です。5000個のメダルを100%リサイクルで作るのは、史上初の試みだそうで、日本の技術と循環型社会の取り組みをアピールできる取り組みだと思えます。

メダルプロジェクトには、多くの自治体やNTTドコモなどが参加していて、公共施設やお店に回収ボックスが置かれているので、私たちが気軽に参加できます。さらに、通常、パソコンはリサイクル料が必要ですが、このプロジェクトに限っては無料で回収してくれます。(回収方法の詳細は <https://tokyo2020.org/jp/games/medals/project/participate/> 参照)

みんなのメダルプロジェクトは、2019年春ごろまでに必要な原料を集める予定になっています。オリンピックメダリストの首に掛かっているメダルに自分が使っていた小型家電の一部（ほんの一部ですが）が使われていると思うと、アスリートでなくてもTOKYO2020への関わりが深まり、ちょっとワクワクします。

参考資料：東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、環境省HP

《Ms. W》

都市鉱山からつくる！  
みんなのメダルプロジェクト

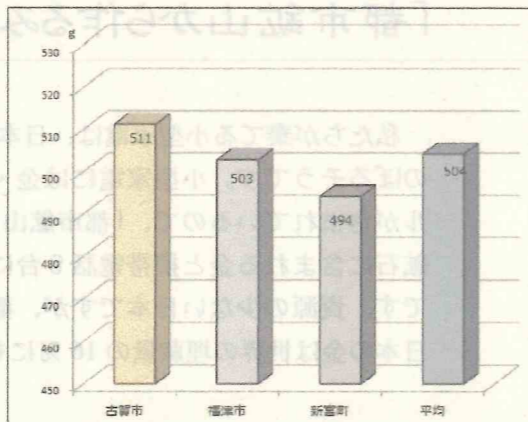
みんなの思いがこもったメダルを東京2020オリンピック・パラリンピックのアスリートに届けよう！

## 焼却ごみ量調べ

### “ごみ減家族”は 地域平均のおよそ1/3！

#### □パッカー車回収による地域の家庭ごみ平均は 504g/人日

私たちの地域(古賀市、福津市、新宮町)の各家庭から、指定ごみ袋で出された焼却ごみは、週に2回パッカー車で圧縮され、古賀清掃工場(エコロの森)に運び込まれ処理されています。その量は、1日1人あたりに換算すると右グラフのようになります(平成29年度)。つまり、私たちの地域ではひとりひとりが家庭の暮らしの中で毎日およそ500gを焼却ごみとして出しているということになります。ところがごみとは不思議なもので、その量は家庭や月によって大いに差があることをご存じでしょうか。

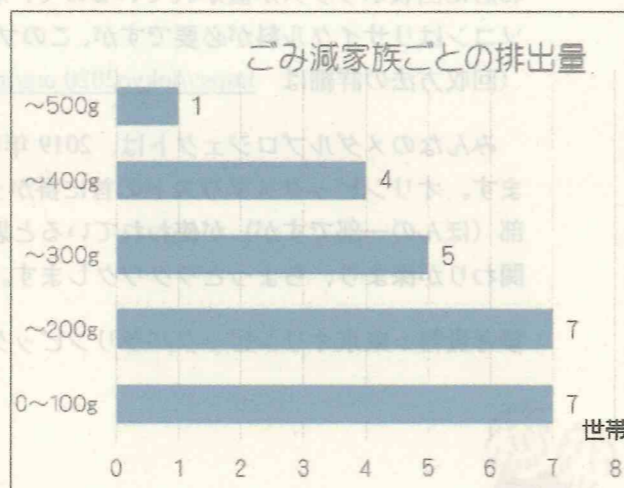


古賀清掃工場の地区別可燃ごみ搬入量から算定した1日1人あたりの家庭系ごみ排出量(平成29年度)

#### □ごみ減家族のごみ量は 186g/人日

そこで“ごみ減家族”を自認される方々に協力いただき、エコロの森への年間の平均搬入量に近かった9月に、1ヶ月間、ごみを出す前にごみ袋の重さを計ってもらい、地域の平均量と比較することにしました。

その結果、24家族、延べ2,092人の焼却ごみの平均値は186gとなり、地域平均の36%量でした。もちろん、計量中、ごみ減量に気づけられたこととは思いますが、中には庭の剪定枝や草をたっぷり出した方や、秋の大掃除に励んだ方、構成数には入らないお孫さんやネコちゃんのごみが含まれている方もおられたにもかかわらず、いずれも地域平均を越す方は、おられませんでした。



#### □新たに分かったこと

さらに、“ごみ減家族”の日頃の取り組みの記述とごみ量の相関関係から、新たな気づきがありました。通常、焼却ごみの中身は、大きく①生ごみ、②紙、③プラスチック、④その他に分類でき、その重量比は、地域差はあるもののおよそ4:3:2:1と把握することができます。これからすると、一見、生ごみの再資源化がごみ減量には多大な効果があるように思われますが、今回の調査から必ずしもそうとは言えないことが見えてきました。もちろん、生ごみの自家処理は減量に効果的ではあるのですが、中には生ごみの自家処理に取り組んでいない家族でも、取り組んでいる家族をしのぐ減量を実現している世帯が複数あったのです。

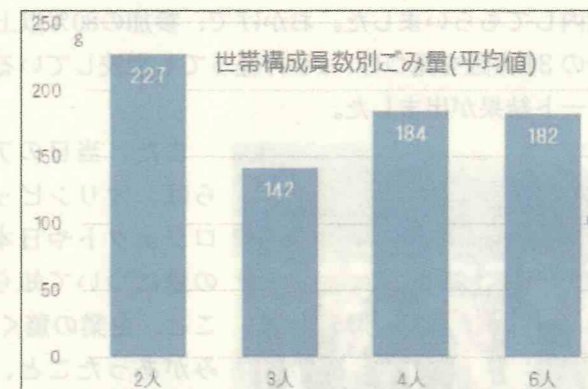
(右上ページに続く)

その理由を推測すると、「紙分別の徹底」と「リデュース魂」にあるのではないかと思います。紙は生ごみに次いで重量割合が高くごみ減量に効果的な中でも、雑がみを含めた分別は、家族全員で取り組むことができる利点があります。

また、リデュースはごみそのものを減らすことを指しますが、生ごみの内訳の半分近くは、食品ロスと呼ばれる食べられる食品です。この食品ロスを減らすことはまさにリデュースです。このことが、必ずしも生ごみの自家処理をしなくとも、食品ロスを減らすことが生ごみ減量につながります。つまり、生ごみの自家処理はしなくとも、紙分別を始め、家族の暮らし全般にリデュースの姿勢が浸透し、ごみそのものの少ない暮らし方につながっているのではないのでしょうか。

#### □ごみを計ってみませんか

今回初めてごみの計量にチャレンジした方からは、「計ってみて良かった。いままで自分のごみが多い方が少ない方も分からなかった。だから特に重さを意識することもなかった。計るうちに減らそうというやる気にもつながった。またやってみよう」という前向きなご意見をいただきました。ごみ計量には、「計るだけダイエット」ともいえる効果がありそうです。



ご希望の方には、つり下げ型計りの貸し出しをします。ぜひ皆さんもお気軽に計ってみてください。1ヶ月ほど続けると、ご家庭の焼却ごみの量と中身がつかめるとと思います。どうぞお気軽にお問い合わせください。

(S)

## 「古賀を歩こう!」と「ぼらんず」コラボ!

秋の「ぼらんず」は、『第18回市民ウォーキング 古賀を歩こう!~秋の路~』の5kmコースで行います。五所八幡宮や青柳宿などがある青柳地区を、ウォーキングしながらごみを拾いませんか。

日時 2018年 11月23日(金・祝)

受付 9:00 開会 9:30

集合/解散 古賀グリーンパーク



- ※ 別途15kmコース、10kmコースもあります。ごみ拾いはありません。
- ※ 事前の申し込みは不要です。どなたでも参加できます。
- ※ 雨天中止(中止の場合、11月22日15時以降に古賀市HPにてお知らせ)

主催 古賀市・古賀市教育委員会

問い合わせ先 生涯学習推進課 TEL092-942-1347